第46回 中高校生の吃音のつどい(演劇レッスン)

11月8日(日)、小学生7人、中学生6人、高校生6人、ご両親13人、スタッフ26人の計58名が参加。千代田区立 千代田小学校ことばの教室にて開催。どもることで悩む高校生がクラスのいろんな人間関係の中で自らの吃音との付き合い方を模索していく自作劇『素敵な私』に、チャレンジしていただきました。小学生から高校生まで、真剣に取り組む姿勢やその声・表情を見て、演劇にして良かったと思っています。年齢は違っても同じ悩みを抱えた仲間が一つのことをやり遂げる。つどいをみんなで作っている感じがして改めて貴重な場だと感じました。

今回、時間配分などの課題は残ってしまいましたが、つどいには本当に、スタッフとして参加して良かったです。自分のために入った言友会がいつのまにか他人のためになっていました。自分のことだけを考えていたら長続きはしなかったように思います。今まで自分のためにいろいろなことをしてきたけれど、つどいほど充実感が得られたものはありません。(リーダー;**江口佑樹**、保坂美帆、菊地由莉、富田佐綾)

H. Y 君 (高校 1年)

初めて参加してたくさんのことが分かりました。吃音の人が私以外にもいたり、スタッフさんでも吃音の人がいたという事実を。そして、たくさん友達が作れたことが何より一番嬉しかったです。次回も参加したいと思いますのでよろしくお願いします。

私はこの演劇で、正義の味方と主人公のサーヤを演じさせてもらいました。(正義の味方はつどいで。主人公サーヤは東京言友会の金曜例会で) ありがとうございます。この『素敵な私』という劇は、私にぴったりの劇でした。というのは、私は中学校時代、この劇みたいなことがあったのです。私は中学校時代、とても吃音でした。自分の名前を言うだけで一分以上かかるぐらい、ひどかったです。そして、今回の劇みたいに発表になると自分を見失って、頭が真っ白になり、しっかりと話すことができませんでした。なので、今回のサーヤ役は、自分になりきって、演じました。そして、この劇を演じて、嫌なことはイヤと皆さんの前で話す大切さを知りました。

次に正義の味方役ですが、これはとても楽しかったです。思いっ切り、演じることができました。中学校時代の経験から言いますと、このような優しい人は一人もいませんでした。まさに、皆さんが敵で、発表していると野次が飛んできて、私は傷つきました。プライドをズタズタに引き裂かれ、時には、自殺することも考えていたくらいでした。でも、今回この劇をやって、良い思い出が作れたので良かったです。これからもこの言友会でたくさんの思い出が作れたらいいなと思います。貴重な劇をさせてくれまして、ありがとうございます。

T.N 君(高校3年)

ココココ

話し合いの時にことばの教室の先生がおっしゃった「どもる人はある意味ことばを選んで話していると言えるのではないか」という意見が心に残り、どもることは決して悪いことではないんだという自信を持ちました。また劇も、今まであまり経験はありませんでしたが、言葉を気にせず堂々と台詞を言えるのは楽しかったです。

吉田 暉(ん(小学4年)

この前の言友会のげきでは、自分と主人公をおきかえて、セリフを言ったり聞いたりしました。言われ方が違っても、いろいろ言われるのは同じなので、がんばります。ぜひ次回もやってもらいたいです。



ぼくは、今回参加して良かったです。中でも良かったのはショート劇です。みんなとてもよく演じられていました。その後の話し合いは、色々なことを話すことができてとても良かったです。

Y.U さん (中学2年)

午前の体揺らし、気持ち良かったです。あと、劇は始め「劇やんの!?」って思ってたんですが、実際やってみると、結構楽しかったです。午前の話し合いは、最後の一人一言でも言いましたが,,, 今日は最初から最後まで吃音の話しが出来て良かったです。それに、新しい友達が出来 たので嬉しかったです。次の集い(3月)も楽しみです。

M.Kさん(中学2年)

れれれれれれれれれれれれれれ

いれれれれれ

j

T T

つどいに行くのは初めてだったので、最初は緊張して演劇の時など声が出なかったりしましたが、話し合いでは楽しく自分の意見などを言うことができました。 周りの人は皆何回か来ている人が多く、慣れている人が沢山いたので、私もこれからの吃音のつどいに参加したいと思いました。

N.Y さん(小4H君のお父さん)

今回、吃音に関しての劇を全員で演じました。内容的に息子がここ数か月実際に言われたり、悩んできたことがまさにそのまま演じられていました。私にとっても単なる劇ではなく、深く胸に刺さるものがあり、また皆さんが抱える不安・悩みをわずかながらでも自分のこととして理解できるものでもありました。

親会の方では、今回初めて参加される方々もいらっしゃって、自分達が初めて参加させていただいた時のことを思い出してしまいました。子供に対する愛情・将来の不安・吃音に対する疑問・・・様々な悩みをどう解決していけばよいのか分からない苛立ち。今後皆さんと色々な話合いをしながら、親としてできることを考えていきたいと思います。

加藤 義則さん(中2Mさんのお父さん)

手作りの素晴らしい集いで感動しました。茨城から初めて参加し、不安半分、期待半分だったのですが、 素晴らしいプログラムと素敵な皆さんとお知り合いになる機会に恵まれ、家族でとても喜んでいます。

吃音と一口に言っても、症状の出方、吃音に対する捉え方、吃音への対処の仕方や考え方など十人十色だと思いますが、一方で、共通する思いや苦しみもあると思います。こういう集まりを通して、色々な方々に接し、お話をさせて頂くことで新たに気づくこと、反省すること、共感すること、力づけられることなど、本やネットからの情報を通してだけでは得られないものが多くありました。また、初めてお会いする方ばかりなのに、"久し振りに会った知り合い"にお会いした様な気がし、久し振りにホッとした時間を過ごせました。

私自身も子供の頃から吃音に苦しんで来ましたが、年齢を重ねるに従って、瞬時に自分の言い易い言葉に置き換えたり、言えない言葉は使わないでかわしたり、言い難い言葉をどうしても言わなければならない場面を避けたりといった"姑息な技術"を身につけた為に、第三者からは、直ぐには吃音だとは気が付かない程にはなりました。(波はありますが…)一方で、この様な "技術" を習得することで、吃音との共存を誤魔化している自分がいることにも気が付いています。『吃音は悪いことではなく個性の1つ』、『"吃音

は直さなければいけない"というものではなく共存すれば良い』などと娘に言っていることに対する自分自身のジレンマも感じています。結局は、自分だって、吃音を100%受け入れて堂々と共存している訳ではないという引け目があります。この当たりは、私自身の課題として、娘とも話しながら今後も考えて行きたいと思っています。



小学生の時に通級していた元児童 2 人(目黒区立東根小学校卒業)に会うことができました。2 人とも背も伸び、しっかりと自分の思いを口にしている姿に安堵の思いと、「子供達はどんどん育っていくんだな」という人というものの力強さを感じました。

午前中の吃音にまつわるストーリーの中での演技、そしてその中で表現する吃音に関する台詞。午後の 小グループに分かれての話し合い。そのどちらにも心を揺すぶられました。その中で話される言葉は、 訥々としたものであり、内面から紡ぎ出すような作業の中から導き出された、とても大事な大事な言葉でした。身の回りで話される言葉は、スピードも速く、その時々の場を瞬時に読んだ言葉を要求されるような切 迫感があります。沈黙の時を恐れるように、沈黙の雄弁さに気付かぬように、ただただ相手とつながれているかという焦燥感から矢継ぎ早に繰り出される言葉が身近にあふれています。

そのような時に、今回話された一人一人の言葉は、日常生活のめまぐるしい言葉の渦の中ではかき消されてしまうような、ゆっくりゆっくり導き出されたものでしたが、心の息吹が感じられる言葉でした。だからこそ、その一言一言に込められた、言葉の重さが感じられる、心を伴った感情のひだが感じられるような言葉でした。

このような言葉は、確かに今のスピードにあふれた時代の中では、気付かれにくいものかもしれませんが、そのひっかかりながらも訥々と語られる言葉の深さを感じる人は必ずいるし、必ず出会えるのだと思います。派手な言動に目がいく時代ですが、物事が決して全てうまくいく訳がないことに多く遭遇するようになってきた時代の中、その訥々とした言葉の息吹が胸に直接響いていく、そんな人達との出会いが必ず待っていると思います。この時代に、こんな真摯に考えられる、つながりを考えられる、後輩のことを考えられる、すばらしい青年達に出会え大切な時を過ごさせてもらったことを有り難いと思いました。

宇都宮祐子(中2Yさんのお母さん)

れれれれれれれれれれれれれれれれれ

ココココココ

Ţ

1111

私の娘は、小学 1 年から6年まで「ことばの教室」に通っておりました。6年間、担当の先生3人、また担当していただいてはおりませんが、声をかけ見守ってくださる先生との出会いの中で、親子共々充実した時間を過ごすことができました。今回のつどいで何よりも嬉しかったのは、以前お世話になった「ことばの

教室」の先生との再会でした。予定しておりませんでしたし、私の方がお顔を見るなり、 懐かしさと感謝の気持ちで一杯で歓喜の声をあげてしまったくらいです。娘は、少し恥 ずかしそうに微笑み話していました。幸いにして、娘は前向き、楽天的で(小さい時か ら、自分の吃と向かい合い、悪いことではないよとはっきり親子で話合っていたからか もしれません・・・)通っていた小学校でも友達に恵まれ、楽しい小学校生活でした。楽 しいという中にも、音読に苦労したり、学芸会に言えそうな台詞を見つけ、役を決めた

り、少なからず、本人が悩んだことは、きっとあったことでしょう。しかし、**吃音に対して話ができる場がある のは、自分自身を見つめること**だと思っています。一人で思い悩んでいたら、きっと堂々巡りで、違う考え や発想が思いつかなく、不安の重さに耐えかねていたかも知れません。親自身も不安や心配を自分だけで抱え込み過ぎ、独り善がりで子供に接していては、子供は敏感ですから良くないと思います。その中で「ことばの教室」で出会った先生方の存在は、私達にとって、とても大きなものでした。娘は、中2ですが、今もその思いは心の中に継続し、私の中では、見守ってくださり、エールを送ってくださっている存在と思っています。(勝手にすみません。)

しかしながら、中学生になると、このような教室がありません。私は親として、かねがね、毎週でなくとも思春期の心が繊細に揺れ動く年齢の時期に、子供自身や親が、専門に相談や話ができる場があるといいなぁと思っていました。「ことばの教室」の先生に相談していたところ、「言友会」を教えてくださり、娘は小5よ

กักถุกถุกถุกถุกการเกากการเกากการเกากการเกากการเกากการเกากกับ

り、つどいに参加させていただいております。言友会は、私が思い描いた場がありました。子供自身も色々な年齢の吃音の方と出会い、話を聞け、聞いてもらえる場、学校以外の居場所、自分の心の中を見つめる場です。

「中高校生のつどい」といっても小学生が多数参加させていただいておりますし、スタッフの青年の方と、小学生の頃から身近に接して、中高生へと成長していくことは、自然の流れの中に心を委ねられるのではないかと思います。また「ことばの教室」の先生が、少しでもここに来てくださって、どんなことをしている場なのか身体で感じていただけたら嬉しいです。「ことばの教室」の中だけでなく、子供達が、人として成長していく手掛かりをつかめるよう、言友会とお互い支え合い、協力できたら素晴らしいと思いました。

桜澤先生の明るさにいつも背中を押されているようで・・・先生に再会できたことがこのつどいだったこと に感謝いたします。娘もこの再会で勇気をもらえ、心の中に何か刻まれたものがあると思います。

富田 佐綾 (スタッフ)

ににい

カカカカ

UUU UUU

Į Į 今回のつどいでは、リーダーやシナリオ作りといった貴重な体験をさせていただきました。正直な話、どちらも大変な役割だと実感しました。文章を書くことは好きな方といっても、シナリオを作るのは簡単なことではありませんでしたし、私はみんなを引っ張る役割を担うことがあまりなかったため、リーダーが自分に勤まるのか不安もありました。

今回、進行面でも関わらせていただいて、前回とは違う達成感を感じています。**私は最初、吃音に悩む** 人を支えたいと考えてつどいのスタッフになりました。しかし、スタッフの皆さんや参加者の方々のご意見 を聞いたり、参加者の方の帰る時の表情を見ていると、支えられているのは私の方だと思います。準備の際の不安や苦労も消えてしまいます。これがスタッフの醍醐味かもしれません。

佐藤 隆治(スタッフ)

・今回、参加者の皆さんによる演劇を初めて見せていただきました。皆さん方が、精一杯今の力で、ここで演じられている。何だかとても幸せな気持ちになりました。Y. Sちゃん(小3)の茶目気ある、気持ちのこもった声もよく届きました。いじめっこ役の気持ち、Yちゃんのこころに入って来ましたか?

A. Sさん(高2)も、今の自分にダブるところがあるのかどうかは分かりませんが、練習を重ねるにつれ、 力強さが声に伴なってきました。

演劇レッスンの目的

- ・どもる我々ですが、自分らしい良い声を持っている。出せる。そしてそれは楽しい、気持ちいいんだという ことを経験して欲しい。声を出す喜び、合わせて演じる喜びを知ってもらいたい。
- ・また演劇レッスンは、どもる・どもらないは関係無いです。今日はどもらなかったから良かったということではなく、今日はどこまで自分らしいいい声がたくさん出るようになったかというところにポイントを置いて欲しい。どもった方が自分らしいリアルな声が出ることも多々あります。もっとどもろう。
- ・自分らしい良い声が今、出ているか?これは、その場に居合わせれば、誰にでも分かるものです。ただ、 声が出ているというのではだめ。いい声だと、今、ここで生きていると言う息吹が感じられる。しかし、なかな かそう簡単に、自分らしい声が出るようになる訳ではありません。

自作劇『素敵な私』に込めた想い

- ・皆さんが様々なこころ無いことばを学校などで掛けられた時、どう返せばいいのか?どう受け止めていけばいいのか?スタッフから皆様方へ、一つの提案の意味を込めて自作したものです。
- ・主人公サーヤを助ける正義の味方がたくさん、なんと3人も出てきます。さらに一番頼りになる親友もそばにいます。現実だとこんなにたくさんいる訳ないじゃん!というご指摘も頂きました。そうかもしれません。実はこの正義の味方は、皆さん個人のこころの中で大切に育てていって欲しいものです。辛いことがあれば

泣き出したくなる自分がいます。そしてもう一人。そんな自分を落ち着いて見ることができ、それでいいん 広と言って人れる自分です。そんた自分をもう一人、こころの中で育てでいって欲しい。「ちっとも楽感ななとなんかじゃないよ。ただちょっと時間がかかっただけに過ぎない」と、そばでささやくスタップがいるという意識を持っていてだくがも良いのかもしれません。もう一人の自分が大きぐなるまでは、
・S、Nさん(小学6年)は担任の先生にこのシナリオを見せてくださったそうです。このように役立ててくださったとは教々としてわれい限りです。
・先生のせりふ「沈黙」はは康があるんだ。…何事にも代えがたいその空間、時を皆で共有できる人だ。沈黙」は怖いことではないという意味付けるして欲しいで、これも若い皆様方にとって受かかけていことばかもしれません。ただこのようにも考える人がいることを、類の隅っこで良いので、入れておいて欲しいです。 だと言ってくれる自分です。そんな自分をもう一人、こころの中で育てていって欲しい。「ちっとも迷惑なこと なんかじゃないよ。ただちょっと時間がかかっただけに過ぎない」と、そばでささやくスタッフがいるとい